一食のさいしんうくる事、我より玄たの人うけ候間は、すこし待こゝろをなし、さいなどをいろい、したの人さいしんうけ候はゞ、食を參るべし、

一食に汁をかくる事、本膳のさい右の手にて少のけ、食を膳にわけ、玄やうじんの汁をかけべし、おほ汁ひや汁同前、但ときのけいぶつなどあるはそれをかくべき也、是賞翫たり、

一ひき物かなかけも、もり付たるをば、かなかけを取あげ、ひだりに持まいるべし、但汁ある物、足のつきたるをば、とりあげずまいるなり、さてはしをおさむるとき、食はじめたる物、あるひは玄やうじんのものにておさむべし、口傳、○中略

一みをくはざるさきに汁をすひ候は、鯉にかぎるよし申つたへ候、其外はことゞくくみをくゐ候て後、汁をすふものぞと、

〔奉公覺悟之事〕一ゆづけは、かうの物よりくひそむべき也、

一めしは、中もりよりくひそむべき也、但物によるべき也

一このわたは、桶を取あげて、はしにてくふべし、是も一番よりは如何、半に一兩度もくふべき也、わかき衆は、玄んしやく有べき也、

一かまぼこ刀め付たるは、はしにてくふべし、其まゝにて候はゞ、取あげてくふべき也、中よりかふるべし、

〔宗五大草紙上〕大酒の時の事同殿中一獻の事

一肴を人の給候事、貴人の給候をば、左の手を上、右の手を下に重て、諸手にて我身をちと玄づめて、手のくぼに受て、深く戴きてくふべし、懷中し候を賞翫と申人候へ共、それはわろしと、金仙寺○伊勢貞宗の給ひ候し、大なる物などはくひきりて、殘をふところへ入候、又等輩の人の給候をば、かた手にて手のひらに請て戴てくふべし、大なる物のしかもぬれたるなどは、くひきりて殘を何